

(大項目の冒頭ページ)

| | | |
|---------------------------------------|--|---------|
| 大項目番号 1 教育内容及び教育の成果等 | I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置 | 中期目標を確認 |
| | (中期目標) ○ 豊かな教養・高度な専門性と社会への対応能力を備えた国際的にも通用する人材を育成するため、カリキュラム・ポリシーに基づき教育課程を編成し、不断に見直す。学生ニーズに対応した教育を提供するため、他大学や企業等のほか、特に東京都との連携を生かした教育を推進する等、多様な学修機会の確保に努める。教育の保証と透明性確保のため、ディプロマ・ポリシーに基づき、卒業認定や成績評価に関する基準を明確にし、厳格な評価を行う。 | 中期計画を確認 |

| 中期計画 | 中期計画の達成状況 | 自己評価 | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|-------|-------|-------|------|------|------|------|-----|-----|--|-----|-----|-----|-----|---------------------------------|
| (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置 ◇ 教育課程の見直し 【1-01】 ① 豊かな教養・高度な専門性と社会への対応能力を備えた国際的にも通用する人材を育成するため、卓越した研究者でもある教員による高度でかつ一人ひとりの学生に真剣に向き合うきめ細かい教育や、総合大学の特長を活かした分野横断的な学びを促す教育等を推進するとともに、全部局におけるカリキュラムの再構築を【平成30(2018)年度】に行う。また、授業におけるTA等を【年間延べ1,000人以上配置】するとともに、アクティブ・ラーニングの導入を推進する。大学院においては、分野横断型(T字型)プログラムを導入する。 【1-02】 ② 外国語教育室(仮称)により「聞く、話す、読む、書く」の4技能を育成する英語教育プログラムを開発するとともに、専門科目においては授業を設置するなど、英語教育の充実させる。また、1年次の外部英語試験受験率【96%以上】を維持し、学生の語学レベルを把握し、英語教育の改善に活用する。 ◇ 多様な学修機会の確保 【1-03】 ③ 社会ニーズ・学生ニーズに対応した教育を提供するため、企業や都等との連携を生かしたインターンシップ等を実施するなど、多様な学修機会の確保に努める。 【1-04】 ◆④ 東京都立産業技術大学院大学(令和2(2020)年3月1日までは産業技術大学院大学。以下同じ。)及び東京都立大学との連携し、海外交流プログラムを推進し、海外交流を図る。また、更なる連携や法人内の教育研究機関と連携し、課題の検証を踏まえつつ、新たな連携の在り方について検討を進める。 ◇ 厳格な成績評価・卒業認定 | 【1-01】 TA制度の説明会を……開催し、TA配置人数は令和○年度にxxx名配置し、計画目標を達成した。またコロナ後の社会変容にも対応できるよう…… <div style="text-align: right;">(単位:人)</div> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td></td> <td>H29年度</td> <td>H30年度</td> <td>元年度</td> <td>R2年度</td> <td>R3年度</td> <td>R4年度</td> </tr> <tr> <td>○○数</td> <td>xxx</td> <td></td> <td>xxx</td> <td>xxx</td> <td>xxx</td> <td>xxx</td> </tr> </table> <p>第三期中期目標期間6年間の主な実績等について、総合的な内容を記載し、中期計画の達成状況を示すこと。 ※2ページ目～の「各年度における主な実績」の転記としないよう注意 KPIは6年間の数値・達成状況を記載する。ポストコロナに向けて取組んだ事項があれば記載する。</p> 【1-02】 平成29年度に○○を実施、平成30年度に△△を……、令和○年度に達成済み。 令和×年度以降は教育内容のさらなる充実に向け○○に取り組み…… 【1-03】 …… 【1-04】 ○○を予定していた海外交流プログラムは、××国の入国制限により実施を見送り、オンラインでの開催…… (表左側で、計画項目に◆を付した場合) 取組及び実績・成果に対する新型コロナウイルスの影響の内容がわかるよう記載 | | H29年度 | H30年度 | 元年度 | R2年度 | R3年度 | R4年度 | ○○数 | xxx | | xxx | xxx | xxx | xxx | 大項目全体としての 期間評価(自己評価)を記載 A |
| | H29年度 | H30年度 | 元年度 | R2年度 | R3年度 | R4年度 | | | | | | | | | | |
| ○○数 | xxx | | xxx | xxx | xxx | xxx | | | | | | | | | | |

| | |
|---|------------------|
| <p>【1-05】⑤ 共通の成績評価基準を【平成 29 (2017) 年度に導入】するとともに、学修のパフォーマンス評価(ルーブリック等)を導入するなど、厳正な成績評価を行うことにより、 中期計画の KPI をスミカッコと下線付で表示</p> | <p>【1-05】・・・</p> |
|---|------------------|

| 第三期中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績評価（東京都地方独立行政法人評価委員会（平成 30 年度）） | |
|--|--|
| <p>見込評価の結果を掲載（評定・評定説明）</p> <p>【評定：2】</p> <ul style="list-style-type: none"> TA 等の充実、大学院分野横断プログラムの設置、学部生による大学院授業科目の早期履修制度の拡充等、教育の質の向上に向けた取組が着実に進んでいる。 1 年次の外部英語試験については、受験率が 100%となるよう、引き続き取り組んでいくことを期待する。 近年、文理に捉われない幅広い教育の重要性について学士課程、大学院課程ともに注目されている中で、全学共通教育プログラムの改革が進展し、多くの学生が実質的にこうした教育を受けられるような工夫が講じられることを期待する。 | |

| | | |
|------------------|--|---|
| <p>認証評価機関の評価</p> | <p>【認証評価機関】 XXXX 【受審年度】 XXX 【評価対象期間】 XXXX</p> <p>○主な優れた点等：・・・・・・</p> <p>○主な改善を要する点等：・・・・</p> | <p>・当該大項目に関連して、第三期期間中に受審した認証評価の結果を記載（複数の場合は下の行に表を追加）</p> <p>・該当がなければ表の設定も不要</p> |
|------------------|--|---|

| 年度 | 各年度における主な実績 | 東京都地方独立行政法人評価委員会の主な評価（評定・評定説明） |
|----|---|--|
| 29 | <p>【1-01】【平成 30 年度】にカリキュラムの再構築を行う準備を完了させた。</p> <p>【1-01】TA 等を【年間延べ 779 人】配置した。</p> <p>【1-01】大学院分野横断プログラムのパイロットプログラム 2 件の開講準備を整えた。</p> <p>【1-01】教育改革推進事業の推進に取り組んだ。</p> <p>【1-02】1 年次の外部英語試験受験率【96%以上 (96.9%)】を維持した。</p> <p>【1-03】現場体験型インターンシップの新規実習先を拡充 (41 件 (平成 28 年度比 15 件増)) した。</p> <p>【1-05】共通の成績評価基準を導入した。</p> | <p>【評定：2】</p> <p>平成 30 年度の学部・研究科の教育研究組織再編に関して、カリキュラムマップ等の策定やルーブリック評価の導入に向けた取組を精力的に進めた。</p> <p>アクティブ・ラーニングの推進について、各部署において多様な取組を実施している点が評価できる。学生と教員の両者に対する働きかけが行われている。</p> <p>各年度の業務実績評価結果の評定と主な評定説明（コメント）を掲載</p> |
| 30 | <p>【1-01】年度を通じて、新旧両組織のカリキュラム・ポリシーに基づく教育を着実に提供した。</p> <p>【1-01】TA 等を【年間延べ 809 人】配置した。</p> <p>【1-01】大学院分野横断プログラムを新規開講し、15 名の履修者を決定した。</p> <p>【1-01】教育改革推進事業について、計 22 件の事業を採択し、アクティブ・ラーニング推進等の取組を実施した。</p> <p>【1-02】1 年次の外部英語試験受験率【96%以上 (96.9%)】を維持した。</p> <p>【1-03】現場体験型インターンシップの履修学生数が拡充 (672 名 (平成 29 年度比 51 名増)) した。</p> <p>【1-03】現場体験型インターンシップの実習先受入枠数が拡充 (766 名 (平成 29 年度比 84 名枠増)) した。</p> <p>【1-05】成績上位者の割合等を定めた「共通の成績評価基準」及び「成績評価基準」の改正を行った。</p> | <p>【評定：2】</p> <p>平成 30 年度に学部・大学院を再編し、新カリキュラムポリシーに基づく教育を着実に実施している。</p> <p>シラバスの整備や TA 制度の充実を通して教育環境の整備に努めている。</p> <p>大学院分野横断プログラムを新規に開講し、募集人数を上回る履修者数を確保できた。</p> <p>教育改革推進事業により、組織的なアクティブ・ラーニングの導入を推進するとともに、その成果や課題を全学で共有するなど、取組を学内全体に生かす機会を設けている。</p> <p>現場体験型インターンシップの学生数、受入件数ともに拡充している。</p> |

| | | |
|---|--|--|
| 元 | <p>【1-01】TA等を【年間延べ870人】配置した。</p> <p>【1-01】大学院分野横断プログラムにおいて、初の修了者を13名輩出した。</p> <p>【1-01】学部生による大学院授業科目の早期履修制度の運用を開始し、2研究科で34名（延べ70科目）の早期履修者を決定した。</p> <p>【1-01】学長表彰制度（ベスト・ティーチング・アワード）の導入準備を整えた。</p> <p>【1-02】1年次の外部英語試験受験率【96%以上（97.6%）】を維持した。</p> <p>【1-03】卓越大学院プログラムを開始し、2名のプログラム生を受け入れた。</p> <p>【1-05】成績分布表の組織的な確認が定着した。</p> <p>【1-05】多様な授業科目におけるルーブリック評価の導入・活用事例の発表を通じて、効果や課題等が共有された。</p> | <p style="text-align: right;">【評定：2】</p> <p>TA制度について、配置人数の拡大、実態把握や効果の検証を行った。</p> <p>大学院分野横断プログラムが順調に進捗し、合計13名の修了者を輩出した。</p> <p>経営学研究科及び理学研究科において、早期履修制度を採用し、34名が大学院授業科目を早期履修し、33名が都立大大学院に進学した。</p> <p>アクティブ・ラーニングを推進するため、成果報告会を開催した。</p> <p>現場体験型インターンシップは採用活動目的のインターンシップとは異なる特徴を持った充実したプログラムが組まれている。</p> <p>ルーブリック評価について、基礎ゼミナールのモデルルーブリックを準備した。3部局においてもルーブリック評価を取り入れた特色ある取組を開始した。</p> |
| 2 | <p>【1-01】DP及びカリキュラム・マップの見直しを行った。</p> <p>【1-01】新型コロナウイルス感染症の影響により、TA等の配置科目の変更を行い、TA等を【年間延べ913人】配置した。</p> <p>【1-01】大学院分野横断プログラムにおける新プログラムを令和3（2021）年9月に開講することを決定した。</p> <p>【1-01】早期履修制度を人間健康科学研究科においても導入した。</p> <p>【1-02】1年次の外部英語試験は、新型コロナウイルス感染症の影響により【中止】となった。</p> <p>【1-03】Society5.0社会において必要とされる、データサイエンス・AI等に関して、新プログラムの開講に向けた検討PTを設置した。</p> | <p style="text-align: right;">【評定：2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな大学院分野横断プログラムとして、「都市・高齢者」をテーマ候補に具体的な検討を行い、「超高齢社会学際プログラム」の開講を決定した。 ・学部生による大学院授業科目の早期履修制度を導入する研究科を拡大し、多くの履修学生が都立大大学院に進学した。 ・教育に貢献している教員に対して、学長表彰制度（ベスト・ティーチング・アワード）による表彰を行い、教育の質の向上に向けたインセンティブを与えた。 ・TA等従事者に対するアンケートについては、今後、アンケートの回答率を高め、検証結果をより強固なものにすることを期待する。 ・1年次の外部英語試験について、コロナ禍での中止はやむを得ない面もあるが、学生の英語能力の把握・向上を図る上で有益な機会であるため、オンライン形式での実施等の工夫により、コロナ禍にあってもこうした機会を設けられることを期待する。 |
| 3 | <p>【1-01】TA等を【年間延べ852人】配置した。</p> <p>【1-01】新たな大学院分野横断プログラム「超高齢社会学際プログラム」を開講し、2名の履修者を決定した。</p> <p>【1-01】早期履修制 中期計画のKPIをスミカッコと下線付で表示</p> <p>【1-01】健康福祉学部看護学科において、救急救命VRを正課授業に取り入れる試みを行った。</p> <p>【1-02】1年次の外部英語試験受験率【96%以上（98.5%）】を維持した。</p> <p>【1-03】コロナ禍においても安全・安心な授業実施に向けた取組により、現場体験型インターンシップを実施した。</p> <p>【1-03】令和4（2022）年度から開設する数理・データサイエンス副専攻の開設準備を行った。</p> | <p style="text-align: right;">【評定：2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、超高齢社会を迎える中、大学院分野横断プログラムとして「超高齢社会学際プログラム」を開講し、幅広い視野と応用的な思考力を涵養する教育に取り組んだ。 ・現場体験型インターンシップについては、積極的に受け入れ先の調整を行うとともに、コロナ感染対策に十分な配慮を行い、学生が安心・安全に、満足するような形で、きめ細かい対応をとりながら実施した。 ・「新しい対面授業」として、知識を教授する授業の一部では、録画教材を有効活用し、学内での対面授業においては、学生同士の議論の時間を充実させる等、教育の質の向上を図った。 ・全学共通教育プログラムにおいて、学生が専攻する分野以外の学びの充実を図ることを期待する。 ・TA従事者に対するアンケートについては、今後、アンケート回答者を増やし、検証結果をより正確なものにすることを期待する。 |
| 4 | <p>【1-01】TA等・・・した。</p> <p>【1-01】大学院分野横断プログラム「超高齢社会学際プログラム」・・・した。</p> <p>【1-02】1年次の外部英語試験・・・</p> <p>【1-03】現場体験型インターンシップについて、・・・</p> <p>【1-04】……………。</p> <p style="text-align: center;">令和4年度の主な実績を新たに記載</p> | <p style="text-align: center;">—</p> |

| | | |
|----------------|---|-----------|
| 中期計画番号 1-01 | I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 | 自己評価 A |
| | 1 教育に関する目標を達成するための措置 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置 | |

◇ 教育課程
① 豊かな教育
人ひとりの

・中期計画の目次を記載
・同一大項目の範囲内の場合、
次の中期計画番号の表からは省略

中期計画はここでも確認可

法人の自己評価を記入

令和4年度計画 業務実績

(1) 【継続】TA等の配置人数の拡大に向け・・・

(1) ティーチングアシスタント (以下「TA」という。)等の充実
① 予算配付方法の検討
<取組事項>
・ 博士後期課程の定員を
<成果・効果>
・ 予算配付方法を決定し、
・ TA等を●●名を配置した。(図表 1-1-1)

・自己評価「S」、「A」、「C」、「D」の根拠となる部分には下線
・ 図表でデータを提示する場合は、参照先の図表番号を記載

く予算配付への見直しについて検討を行った。

・ 図表番号、図表タイトルを明記
・ データ単位 (名、件など) を省略する場合は表外に単位を記載

年度計画 (表左) と
取組状況 (表右) を比較

【図表 1-1-1】TA等の配置人数推移 (単位：名)

| 平成 29 (2017) 年度 | 平成 30 (2018) 年度 | 令和元 (2019) 年度 | 令和 2 (2020) 年度 | 令和 3 (2021) 年度 | 令和 4 (2022) 年度 |
|-----------------|-----------------|---------------|----------------|----------------|----------------|
| ## | ## | ## | ## | ## | ## |

※TA制度：TAはTeaching Assistantの略。大学教育の充実のため、都立大の大学院に在学する優秀な学生に対し、学部学生等の教育に係る補助業務を行わせ、これに対する手当支給により経済的支援を行うとともに、教育訓練の機会提供を図る制度。

用語解説を設ける場合は、
各項目の末尾に※で記載

(2) 【継続】大学院分野横断プログラムにおいて・・・

(2) 大学院分野横断プログラム
① 新規プログラムの実施
【特記事項 I・◆ 参照】

特記事項の通し番号を記載

(特記事項のポイント) 特記事項に記載した内容の要点を記載

・ 新カリキュラム・ポリシーに基づき○○を実施
- ××の提供

(3) 【継続】・・・する。(1-●●再掲)

(3) ...の拡充【中期計画番号1-●●参照】
(要点)
・ ...をxx回提供
・ xxx名が...し、○○を促進

・ 内容を別の項目で中心的に記載する場合は、参照先を記載するとともに、当該中期計画・年度計画の趣旨に則した取組、成果等の要点を記載

(表左側で、計画項目に◆を付した場合)
取組及び実績・成果に対する新型コロナウイルスの影響の内容がわかるよう記載

(4) ◆・・・

(4) ...の拡充
<取組事項>
○○に向け調整を進めていた××の実施は、新型コロナウイルス感染症の○○のため中止となり、代替の・・・

新型コロナウイルス感染症による影響を受けた計画項目は、◆を付す

特記事項

Ⅱ-1

Ⅱ 東京都立産業技術大学院大学に関する特記事項

令和2年度業務実績評価及び第三期中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績評価において、公立大学分科会から対応報告を求められた事項に関する取組等

【内部質保証システムが効果的に機能するための取組】 中期計画番号 2-07 自己評価 A

1 PDCA サイクルによるマネジメント機能の強化

<取組事項>

- 令和2（2020）年度、教育・研究、組織・運営及び施設・設備の状況について、組織として継続的に点検及び評価することで、質の保証を行い、絶えず改善に取り組むこと（以下「内部質保証」という）を推進するために、学長を室長とする内部質保証室を設置した。（東京都立産業技術大学院大学内部室保証室設置要綱）
- 令和3（2021）年度には、内部質保証システムの構築に関し必要な事項を「東京都立産業技術大学院大学内部質保証システム実施要綱」として制定した。
- 実施要綱では、学内の各組織について内部質保証システムにおける役割を明確にし、業務を自主的かつ継続的に改善及び向上させるための11個のPDCAサイクルを定めた。
- 各PDCAサイクルの実行責任者は、対応する研究科、委員会、事務局等の各組織の長とし、自己点検・評価委員会は、PDCAサイクルの進行管理を行う。自己点検・評価委員会は、定められた期間ごとに各PDCAサイクルの状況について、その結果を教授会を通して、内部質保証室に報告する。内部質保証室は、報告された結果を点検し、必要に応じて教育研究審議会への審議を通して改善を指示する。改善指示を受けた組織は、自己点検・評価委員会の管理のもと、改善措置を策定し、改善措置による計画の実施を行う。

<成果・効果>

- 内部質保証に関する責任体制及び内部質保証を実施するための手続きが明確となった。
- <課題・方向性>
- 自己点検・評価によって確認された問題点が改善されているか、また伸ばすべき特徴がどのように伸ばされているかを実施要綱に基づき自己点検・評価委員会において具体的に確認していき、内部質保証システムを機能させていく。

(例)
令和3年度記載内容

<内部質保証システムにおける各組織体の役割図>

